香川県立保健医療大学リポジトリ

臨地実習指導者が認識する看護師としての役割モデル行動

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2021-06-21 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 香西, 尚実, 湯谷, 美枝子, 穴吹, 道代, 広瀬, 絵美子, 大西, 操, 大平, 忍, 近藤, 真紀子 メールアドレス: 所属:
URL	https://kagawa-puhs.repo.nii.ac.jp/records/295

香川県立保健医療大学雑誌　第２巻，65—72，2011

臨地実習指導者が認識する看護師としての役割モデル行動

香西 尚実[1)]*，湯谷 美枝子[2)]，穴吹 道代[3)]，
広瀬 絵美子[3)]，大西 操[4)]，大平 忍[5)]，近藤 真紀子[6)]

[1)] 国立大学法人香川大学医学部附属病院，[2)] 独立行政法人国立病院機構香川小児病院
[3)] 国家公務員共済組合連合会高松病院，[4)] 独立行政法人国立病院機構善通寺病院
[5)] 社会医療法人財団大樹会総合病院回生病院，[6)] 香川県立保健医療大学看護学科

Role-Model Behaviors Expected of Nurses by Instructors of Practical Nursing Training

Naomi Kozai[1)]*，Mieko Yutani[2)]，Michiyo Anabuki[3)]
Emiko Hirose[3)]，Misao Onishi[4)]，Shinobu Ohira[5)]，Makiko Kondo[6)]

[1)] Kagawa University Hospital, [2)] National Hospital Organization Kagawa National Children's Hospital
[3)] Federation of National Public Service Personnel Mutual Aid Associations Takamatsu Hospital
[4)] National Hospital Organization Zentsuji National Hospital
[5)] The Taiju-Kai Foundation Social medical corporation Kaisei General Hospital
[6)] Kagawa Prefectural University of Health Sciences Department of Nursing

要旨

目的：臨地実習指導者が認識する，看護師としての役割モデル行動を明らかにし，学生指導のあり方についての示唆を得る．

方法：フォーカスグループインタビューによって収集した６名の臨地実習指導者の語りを，質的帰納的に分析した．

結果：臨地実習指導者が認識する看護師としての役割モデル行動は，1）喜び悲しみを患者・家族と共感しながら共に成長する，2）経験によって培われた技・勘を次の看護ケアに活かす，3）人間に対する洞察を深める，4）失敗を恐れず理想を追い求める，5）感情のコントロールができお互いを認め連携を図る，であった．

考察：臨地実習指導者が学生に，看護師としての役割モデル行動を示す意義は，生き生きと看護する姿を示すことを通して，看護の醍醐味を伝えることであり，本研究で示された５つの役割モデル行動は，臨地実習指導者の行動指針となることが示唆された．

Key Words: 役割モデル行動（role model behavior），
臨地実習指導者（instructor of practical nursing training）

* 連絡先：〒761-0793　香川県木田郡三木町大字池戸 1750-1　国立大学法人香川大学医学部附属病院看護部　香西 尚実
* Correspondence to: Naomi Kozai, Department of nursing, Kagawa University Hospital, 1750-1 Mikicho-oazaikenobe, Kitagun, Kagawa 761-0793 Japan

はじめに

臨地実習は，学生が学内で習得した看護に必要な専門的知識・技術・態度を看護実践の場に適用し，看護の理論と実践を結び付けて理解し，対象を全人的にとらえた看護実践を展開する能力を養うことを目的とする[1]．近年，看護実践能力の育成が特に重視され[2]，臨地実習の重要性がより高まっている．しかし，同世代の若者と同様に，看護学生の基礎能力や常識，学力のみならず，コミュニケーション能力や社会性の低下が指摘される[2]．また，臨床現場では，高度な治療・処置を要する患者が集中し，環境刺激による悪影響を受けやすい状況にあることから，対象者から実習協力依頼を断られる場合や，技術習得の機会が十分に得られない状況がある．学生・臨床現場の双方の変化の中で，いかに臨地実習を価値ある学習の場にするかは，重要な課題である．

看護実践能力とは，看護技術を使って看護ケアを生み出していく力であり，対象者がどのような状況に置かれているのかを察知する力，つまり，想像力と創造力を必要とする[3]．看護教育の在り方に関する検討会[4]は，臨地実習の場に卓越した看護職者としての役割モデルが存在することが，学生に良い影響を与えると提言し，また，太田ら[5]は，看護学生が役割モデルを活用して臨床現場に参与し，看護師としての思考過程を共有することで生まれる知の生成を，看護教育における役割モデル行動の有用性としている．学生の看護実践能力を高めるためには，看護の本質を具現する卓越した看護実践を，身近に見て学ぶプロセスが必要であり，役割モデルとなる看護師の存在は不可欠である．

臨地実習指導者の役割は，学校の教育方針を理解し実習環境及び指導体制を整えること，学生の個性や能力を尊重して指導に当たること，受け持ち患者の選定と患者へのインフォームド・コンセント，看護計画の立案や看護実践への指導であり[1]，卓越した看護実践を提供する役割モデルとしての臨地実習指導者の役割については，これまで十分に検討されてこなかった．しかし，教育者としての視点をもつ看護実践者である臨地実習指導者は，学生に役割モデルを示す者として，最適者である．

役割モデル行動に関する先行研究では，看護師・学生・看護学教員を対象とした研究がある．看護師が知覚する看護師の役割モデル行動[6]には，〈専門的な知識・技術を活用し，クライエントの個別性と人権に配慮しながらあらゆる事態に対処する〉〈看護職・病院・病棟全体の発展を考慮し，その機能の維持・向上に努める〉など７つの特徴があり，学生が知覚する看護師の役割モデル行動[7]には，〈学習環境を調整しながら学生の主体的な学習活動を支援する〉〈複数の役割を果たしながらも看護師としての機能を十分に発揮する〉などの６つの特徴がある．看護学教員の役割モデル行動に関する研究[8]では，〈学生の学習環境を整え，質の高い教授活動を展開し，授業の目的・目標の達成をめざす〉〈看護学とその教育の独自性を反映した研究活動を行ない，教育実践の質向上，研究のさらなる発展，産出した成果の社会への還元をめざす〉などの８つの特徴が明らかにされている．しかし，臨地実習指導者が，学生の看護実践能力を高めるために，どのような役割モデル行動をとればよいかを明らかにした研究は存在しない．

研究目的

臨地実習指導者が認識する，看護師としての役割モデル行動を明らかにし，臨地実習指導のあり方についての示唆を得る．

方　法

１．用語の定義

本研究では，役割モデル行動（role model behavior）を，他者が同一化を試みる看護師としての理想的な態度や行動であり，看護師としての職業活動の中に存在し，職業的発達を導く観察可能なふるまい[6, 9, 10]，と定義する．

２．対象

現在臨地実習指導を担当している，あるいは担当する予定がある看護師で，平成21年度香川県保健師助産師看護師実習指導者講習会に参加している者．

３．調査方法

フォーカスグループインタビューは，寛容で威嚇的でない場において，焦点化された領域に関する研究参加者の認識を得るためにデザインされた研究手法であり，グループダイナミックスが有効に機能することが期待される[11]．本研究では，フォーカスグループインタビューの手法を参考に，以下の手順で行った．

１）グループメンバーの選定方法

実習指導者講習会の受講生事前調査に基づき，主催者の行ったグループ分けに従った．

２）グループインタビューにおけるテーマの焦点化

①経歴，関心領域，問題意識などについて自己紹介し，互いに，メンバーについての理解を深めた．

②ディスカッションのテーマを，役割モデル行動に焦点を定めることについて，グループ内の合意形成をはかった．

３）フォーカスグループインタビューの進め方

①ファシリテータは，グループメンバーの役職・臨地実習経験年数・看護基礎教育課程などの情報に左右されることなく，平等に体験談が語れるように配慮した．各々が語った体験内容と，グループメンバーそれぞれの体験を照らし合わせて，経験の意味を掘り起こすよう，適宜，質問や承認の言葉を与え，グループダイナミックスを有効に機能させた．

②各メンバーは，ディスカッションの焦点が役割モデル行動であることを認識した上で，「なぜ看護師になったのか」「印象に残った看護師」「現在の自分を導いてくれた人」「看護とは」「私たちが求める看護師像」「卓越した技」「苦しみ」「喜び」「仕事への姿勢」「やりたい看護」「とんでもない経験」などを刺激語として，これまでの臨床経験を自由に語り合った．
③記録係は，ディスカッション内容をできるだけ忠実に速記した．
④記録係・ファシリテータの役割は適宜交代し，グループメンバー全員の意見が反映されるようにした．

４．分析方法

①ディスカッションの記録内容を熟読した．
②各々のメンバーから語られた体験毎に，体験内容を忠実に表す言葉で表現し，語られた体験内容とした．
③語られた体験内容を熟読し，意味の類似するものを集めて含まれる意味を表現し，下位概念とした．
④下位概念を熟読し，意味の類似するものを集めて含まれる意味を表現し，サブカテゴリーとした．
⑤サブカテゴリーの意味の類似するものを集めて含まれる意味を表現し，カテゴリーとした．
⑥分析過程で質的研究者のスーパービジョンを受けた．

５．倫理的配慮

以下の７点について，参加者全員の合意を得た．
①グループワークの参加者は自由意志に基づいて参加する．
②グループワークのテーマは全員の合議のもとに行う．
③ディスカッションの最中に，非難・中傷をしない．
④ファシリテータは中立的な立場でディスカッションを調整する．
⑤研究以外の場でディスカッション内容を語らない．
⑥研究をまとめるにあたり，個人が特定されない表現を用いる．
⑦各施設の直属の上司に研究発表を行なうことを説明し，同意を得る．

結　果

１．対象の概要

対象者６名の平均年齢は 38.5±4.9 歳，性別は男性１名・女性５名，看護基礎教育課程は高等学校専攻科３名・専門学校（２年課程）３名であった．臨床経験年数は 17.3±5.4 年，臨地実習指導者経験年数は，なし１名・５年未満４名・５～10 年１名であった．所属施設の設置母体は，国立３名・公立２名・私立１名，所属施設の病床数は，300 床以上３名・300 床未満３名だった．実習指導の受け入れ先は，大学１名，専門学校（４年課程）２名，専門学校（３年課程）７名，専門学校（２年課程）２名，通信課程２名，高等学校専攻科４名，高等学校衛生看護科３名（複数回答）だった．詳細は表１に示す．

２．臨地実習指導者が認識する看護師としての役割モデル行動

グループディスカッションに要した時間は，21 日間（約 101 時間），語られた体験内容は 110 であり，これらを集約して，11 のサブカテゴリー，５のカテゴリーが得られた．詳細は表２に示す．

以下，カテゴリーは【　】，サブカテゴリーは《　》，下位概念は〈　〉，ディスカッションの一例を「　」で示す．

１）【喜び悲しみを患者・家族と共感しながら共に成長する】

このカテゴリーには，《患者の喜び・悲しみをすべて受け入れ共感し信頼関係を形成する》《人との関わりの中で成長する》が含まれた．これは，患者・家族と信頼

表１　対象の概要　　n=6

平均年齢	
	38.5±4.9 歳
性別	
男性	１名
女性	５名
看護基礎教育課程	
専門学校（２年課程）	３名
高等学校専攻科	３名
臨床経験平均年数	
	17.3±5.4 年
臨地実習指導者経験年数	
なし	１名
５年未満	４名
５～10 年	１名
所属施設	
設置母体	
国立	３名
公立	２名
私立	１名
病院の種類	
総合病院	５名
専門病院	１名
病床数	
200 床以下	２名
300 床以下	１名
500 床未満	２名
500 床以上	１名
実習指導受け入れ先	（複数回答）
大学	１名
専門学校（４年課程）	２名
専門学校（３年課程）	７名
専門学校（２年課程）	２名
通信課程	２名
高等学校専攻科	４名
高等学校衛生看護科	３名

表２　臨地実習指導者が認識する看護師としての役割モデル行動

語られた体験内容	下位概念	カテゴリー	
・心臓マッサージの最中に患者が『もうやめてほしい』といわんばかりに医師の手を握ってきた．命の瀬戸際で患者の声を聞こうとする真摯な精神が必要と思った．	意識の有無に関係なく，すべての患者の気持ちをくみ取る大切さ	患者の喜び・悲しみをすべて受け入れ共感し信頼関係を形成する	喜び悲しみを患者・家族と共感しながら共に成長する
・死亡宣告後の夫に妻がキス，看護師にも「ありがとう」と言葉をくれた．	患者・家族との関係がうまくいくと喜びや悲しみも共感でき，また感謝された時は苦悩も喜びへと変わる		
・患者の気持ちを理解し寄り添いながらケアすると患者が喜んでくれた．			
・小学生の患児が亡くなった後，母親が感謝の気持ちを示してくれた．			
・患者から必要とされた時に優しく手を差し伸べる．	包み込むように優しく温かい手で差し伸べる		
・幼少の頃，笑顔で穏やかな看護師が接してくれ，怖い注射も頑張れた．			
・看護のイメージとして母性のやわらかさ・包容力があり，男性看護師は立ち入りにくい場面がある．			
・日々の業務に追われ疲れた体をマッサージで癒せた．そのケアを自分が患者に提供できていないと思い，涙が出た．	患者の言動や態度から学び成長する	人との関わりの中で成長する	
・不穏の患者をナースステーションで観察していたら家族に人権侵害と言われた．			
・どんなに忙しくても衣類やシーツを整え，基本のケアを怠らない．			
・患者に怒られて患者の気持ちや痛みを理解し対応するようになった．			
・清拭・モーニングケアをしようとしたが患者が拒否した．本当に今するべきなのか考えさせられた．			
・退院に向けての技術指導ばかりに目を向け，患児の母の心情を察することができなかった．	患者の気持ちや患者を取り巻く生活背景などを捉えた目線で関わる事が必要		
・死に逝く患者の前で家族が遺産相続の話を始めた．安らかな死への過程を援助することができなかった．			
・日々の現場は動いており，緊急事態への対応が瞬時にできる．	切迫した事態で新たに発生した現象に対応できる	切迫した事態の中で経験してきた学習を振り返りながら行動する	経験によって培われた技・勘を次の看護ケアに活かす
・仕事が正確で速く，要領がよい．			
・予期せぬ状況の変化にも限られた人員で対応できる．			
・看護行為が直接患者の生命に関わるが故のケアに対するジレンマ．	何か変と気づく先見能力（勘がはたらく）	日々の業務の中で臨床知を習得し，生命に関わる経験をしている	
・マニュアル化できない，何か変と気づく先見能力（勘がはたらく）．			
・看護行為が直接患者の生命に関わる重大さがわかるような経験をした．	看護行為が直接患者の生命に関わる重大さを身をもって知る		
・先輩看護師を手伝おうと声をかけたが，これは私の責任だからと断られた．			
・母親の強い思いが現代の医療をこえる奇跡を起こすことがある．	家族の思い，患者の希望をくみ取り看護することの大切さ	可能性を信じてあきらめない患者・家族を支える	人間に対する洞察を深める
・時間をかければ食べられる．患者も食べたいと願っている．しかし施設の受け入れ拒否がある．患者の思いを大切に調整役をする．			
・喘息発作の苦しみか挿管の苦しみか．老齢の医師は「患者の声を聞きなさい」と言う．患者の尊い命を自分が見極めなければならない責任の重さ．	教科書では教わらない，患者と共に悩む看護の深み	大事なことは目にはみえない，心の目で見る大切さ	
・末期癌の死の恐怖・苦痛・苦悩の底にいる患者をわずかでも笑顔にして，心を和ませることができる看護師の大きな力を知った．	エンドステージにおける患者との信頼関係が笑顔をひきだす		
・今の看護経験は自分の看護経験の一部分であるから焦らず一歩一歩進みなさい（先輩看護師の励まし）．	長い人生，自分の一生の一部分であるから焦らず一歩一歩進みなさい（先輩看護師の励まし）	失敗は成功の元，失敗を恐れず前向きな姿勢・意欲を持つ	失敗を恐れず理想を追い求める
・全てのインシデントやアクシデントから学びとることがある．	失敗を受けとめ，得た学びを活かす		
・必死で仕事を覚えようと頑張って，もまれて強くなった．			
・幼少の頃，父を看てくれたＮｓが理想であり，その姿を追い求める．	小さな達成感，向上を積み重ねながら理想を追い求める	いくら経験を積んでも，常に初心を忘れない	
・どんなに忙しくても，上手くいったり患者に感謝されたりすると，達成感がある．			
・経験を積んでも初体験の業務があるが，前向きな気持ちで挑戦していく．	何事も初体験の業務がある		
・右往左往しながらもＮｓになろうと思った初心を思い出してＮｓを続けている．	先輩看護師から知識を学びとる謙虚な姿勢		
・先輩看護師からの叱責を受け，ぼんやりしていた看護への思い・看護観を根本的に考え直した．			
・全く違った部署移動でギャップを感じ，何もできない無力感に陥った．	無力感・葛藤に陥り抜け出せない	無力感・葛藤も人生の一部分	
・癌だった母，心筋梗塞で倒れた父に何もしてあげられなかった自分が許せない．			
・夜間の点滴チェックの時，自分が確認した後を先輩看護師が気付かれないように確認してくれていた．	今のままの自分を認め，周囲から認められる	お互いを認め合い連携を図る	感情のコントロールができお互いを認め連携を図る
・地道に仕事をすることの大切さ，誰かが必ず見ていてくれる，ありのままの自分を認めてくれている．			
・患者が安心安全に入院生活が送れるように他職種の内容であっても代行業務（トイレ掃除・電気の交換・警備・洗濯・事務など）をする．	状況に応じて，職種を超えた業務を代行する		
・医師と患者の思いを理解し調整したい．	医師と対等にディスカッションできる		
・医師の間違いに気付き発言できる．			
・他職種間との連携のための良きファシリテーターとなる．	一人で仕事はできない，協力体制にはコミュニケーションが必要		
・職場の人間関係を上手に作る．			
・夜間帯の患者の急変時 DNR の情報共有がなかったため蘇生してしまった．			
・医師は医師なりの苦悩を持っていることに気がついた．	立場が変われば相手にも苦悩があることがわかる		
・感情に起伏がなく，いつもニコニコしている．	笑顔で感情をコントロールする	感情のコントロールができ，自分の意見を上手に伝える	
・苦しさ・辛さ・怒りなどをこらえ患者の前ではそれを見せない．			
・忙しくても悟られないようにする．			
・自分の行為を第三者に客観的に伝える．	相手を尊重した態度であきらめないで意見をすり合わせていく		
・看護（価値）観の対立が起こったとき，あきらめずに折り合いがつくまで話し合う．			
・上司にも上手に意図を伝え，提案や発言ができる．			

関係が形成されると，患者は喜び悲しみを表出しやすくなり，看護師は患者・家族との関わりの中で，多くのことを学び成長していることを示した．

ディスカッションの一例：「ICU に救急搬送された高齢の女性に，若い医師が心臓マッサージを行った．心電図の波形はフラットだが医師は心臓マッサージを続けていた．その最中に患者がもうやめてほしいといわんばかりに医師の手を握った．その手はすぐにダランと落ちた．誰もが救命措置を望んでいるわけではない．患者本人の意思はどうなのか．心臓が動きさえすればいいのか．たった一つの大切な命の権利はその患者自身にある．意識の有無にかかわらず，患者の気持ちをくみ取ることの大切さを学ぶ貴重な体験だった．」

２）【経験によって培われた技・勘を次の看護ケアに活かす】

このカテゴリーには，《切迫した事態の中で経験してきた学習を振り返りながら行動する》《日々の業務の中で臨床知を習得し，生命に関わる経験をしている》が含まれた．これは，常に現場は動いており，緊急時には瞬時の判断・実践能力が問われる．その中で培った生命に関わる経験からの学びを，次の看護に活かし続けることを示した．

ディスカッションの一例：「NICU 勤務時代のある夜，重症患児 13，正常新生児 10 名を二人夜勤の余裕のない状態で看護していた．その時に，超低出生体重児と極低出生体重児の双胎の緊急母体搬送があった．看護師二人とも経験年数３年ほどだった．自分が双胎児を看て，残りの一人が全患児を受け持つ，やるしかない．医師は怒鳴る『応援をよべ』．でも今呼べば日勤が回らなくなる．何とか夜を超えた．その凄まじい状況を超えられたから，今は何があっても大丈夫と思える．その後，マニュアル・体制を整備し，４つ子を迎えることができるようになった．」

３）【人間に対する洞察を深める】

このカテゴリーには，《可能性を信じてあきらめない患者・家族を支える》《大事なことは目にはみえない，心の目で見る大切さ》が含まれた．これは，目に見えない患者・家族の深い思いに心を傾け，人に対する深い洞察力を持つことで，患者の可能性を信じて支援することを示した．

ディスカッションの一例：「いわゆる廃用症候群の患者．家族は患者の ADL 改善に消極的であり，『施設から胃ろう（PEG）を造ってもらわないと引き受けられないと言われたので，胃ろうを造ってほしい』と言う．確かに食べる行為には，リスクをともなう．しかし，本来人間が持っている，食べるという基本的欲求を，奪うことにはならないのか．体位を整え嚥下状態を確認しながらゆっくり時間をかけると，経口摂取できた．その時，患者が笑顔を見せてくれた．患者は食べたがっている，おいしいと感じていると思った．自分たちは患者の意に添いたい．だから，それ以降も患者の状態を観察しながらできるだけ口から食べられるように関わっている．」

４）【失敗を恐れず理想を追い求める】

このカテゴリーには，《失敗は成功の元，失敗を恐れず前向きな姿勢・意欲を持つ》《いくら経験を積んでも，常に初心を忘れない》《無力感・葛藤も人生の一部分》が含まれた．これは，失敗も経験の一つと考え，前向きに取り組むことを示した．

ディスカッションの一例：「1 年目の頃の自分は，仕事の覚えも喋り方も行動も遅く，同期の看護師と比べて仕事が遅かった．どこをどうすれば早く仕事が終わるのか分からず，悩んだ挙句，母親の年齢ほどの先輩看護師に相談した．『仕事が遅いことを苦にすることで，今より早く仕事が出来るようになるの？』と問われた．『できません』と答えると，先輩看護師は『じゃあ，いいんじゃない』とさらっと答えた．眼から鱗が落ちるように思えた．私は私，仕事を要領よく終わらせることはできないが，自分が納得できる仕事を丁寧にしていこうと思い，心が軽くなった．その後，自分が後輩を指導していく立場になり，若い頃の自分のような看護師をみても許せるし，仕事が丁寧であれば，長い看護師経験の貴重な糧になるだろうと思えるようになった．」

５）【感情のコントロールができお互いを認め連携を図る】

このカテゴリーには，《お互いを認め合い連携を図る》《感情のコントロールができ，自分の意見を上手に伝える》が含まれた．これは，チーム医療には多職種間の協力が不可欠であり，緊急時には職種を超えた業務を代行することや，看護に対する価値観の違いに遭遇した時にも，感情をコントロールし連携を図ることを示した．

ディスカッションの一例：「根拠や目的意識を持って口腔ケアをしていこうと提案したところ，『時間がかかるのに，これ以上仕事は増やせない』と，多くのスタッフから反対され非難を受けた．しかし，同じ思いを持つ少数の看護師で地道に準備を進め，嫌がり文句を言う看護師の意見も聞き入れながら，歯科衛生士による指導を得て，口腔ケアを実施した．次第に『口がきれいになってきた』『口臭が気にならなくなってきた』という意見が出てきた．面会の家族からも『前より口がきれいなんだけど，もしかしたら歯まで磨いてくれているの？』と驚きと感謝の言葉をもらいスタッフ全員の意識が少しずつ変化した．命令によるケア実施ではなく，個々の看護師が納得の上で，同じ目標に向かって実践できたと実感できた．」

考　察

臨地実習指導者が認識する，看護師としての役割モデル行動は５つに集約された．本項では，臨地実習指導者が学生に役割モデル行動を示すことの意義，対象別によ

る役割モデル行動の認識の違い，本研究結果の臨地実習指導者への活用について考察する．

1．臨地実習指導者が学生に役割モデル行動を示すことの意義

臨地実習指導者が認識する看護師としての役割モデル行動は，【喜び悲しみを患者・家族と共感しながら共に成長する】，【経験によって培われた技・勘を次の看護ケアに活かす】，【人間に対する洞察を深める】，【失敗を恐れず理想を追い求める】，【感情のコントロールができお互いを認め連携を図る】，であった．

本研究の対象者は，臨床経験年数が 17.3±5.4 年と比較的長く，豊富な臨床経験を持っていた．ベナー[12]は，経験に基づく臨床理解は，信頼に足る知識を生み出すと述べており，臨地実習指導者は，多くの看護体験を通して臨床知を蓄積している．本研究で得られた５つの役割モデル行動は，卓越した技を呈示するだけではなく，臨床知を獲得していくための向上心，看護実践を通しての人間としての成長，看護師としての生き様をも含むことを意味する．

堰合ら[13]は，学生が臨地実習で，役割モデルとなる看護師との出会いを通して，看護のやりがいや面白さに気付き，看護に対する好感度を高めると述べ，板野[10]は，学生が自分を取り巻く意味のある人たちをモデルとして，その価値観を自分のものとして取り入れると述べている．看護学生は，臨地実習において，役割モデルとなる臨地実習指導者と出会うことで，行動変容を起こすことが期待できる．

臨地実習指導者は，自らが生き生きと看護する姿，つまり看護師としての役割モデル行動を示すことで，臨地実習現場でしか味わうことのできない看護の醍醐味を，学生に伝えようとしている．

2．役割モデルについての対象別の認識の違い

今回得られた結果と先行研究を比較すると，看護師の知覚する７つの役割モデル行動[6]の内の〈専門的な知識・技術を活用し，クライエントの個別性と人権に配慮しながらあらゆる事態に対処する〉と，本研究の【経験によって培われた技・勘を次の看護ケアに活かす】が一致し，学生が知覚する６つの看護師の役割モデル行動[7]の内の〈複数の役割を果たしながらも看護師としての機能を十分に発揮する〉と，本研究の【感情のコントロールができお互いを認め連携を図る】が類似した．看護教員の役割モデル行動の８つの特徴[8]は，今回得られた結果と一致するものはなかった．

【喜び悲しみを患者・家族と共感しながら共に成長する】【人間に対する洞察を深める】【失敗を恐れず理想を追い求める】は，臨地実習指導者に特徴的に認められた．この３つの役割モデル行動は，看護現象から常に前向きに学ぼうとする姿勢，患者ではなく人間としての対象に寄り添う姿勢，を示す．臨地実習指導者は，対象に寄り添う実践の中で常に向上を目指すことに看護の醍醐味を感じ，自らの生き様を示すことを役割モデル行動と考えている．これらは，看護師や学生の認識とは異なる，臨地実習指導者に固有の役割モデル行動と言える．

次に，村上ら[8]の示す看護教員の役割モデル行動と本研究結果が，全く一致しなかった理由について考察する．村上ら[8]の示した８つの特徴は，教育者としての役割モデル行動であり，本研究で明らかにしたのは，臨地実習指導者が認識する看護師の役割モデル行動である．看護師と教員との役割モデル行動に共通点が見られないのは，当然の結果といえる．今後は，臨地実習指導者としての役割モデル行動を明らかにし，看護教員と指導者の役割モデル行動の違いを明確にする必要があると考える．

3．本研究結果の臨地実習指導への活用

1）看護学生に看護師としての役割モデル行動を示すためには，臨地実習指導者が，看護師として成長し続けることが，まず第一に重要である．本研究で示した５つの役割モデル行動は，看護師としての成長を促す指針となる．

2）臨地実習指導者は，日々の業務に追われる中で，実習指導にあたっている．実習指導において学生への教育的関わりが重要であることは理解しているが，多忙・重責の中では，自己の感情のコントロールが難しいこともある．【感情のコントロールができお互いを認め連携を図る】を指針として，自己の感情のコントロールの重要性を再認識する．

3）臨地実習指導者が，役割モデル行動を意図的にとることにより，他のスタッフが学生に役割モデルを示すことの重要性に気づくと期待できる．これらの波及効果により，病棟全体が，看護学生に対して教育的な関わりのできる理想的環境となり，学生の学習効果が高まると考えられる．

以上，本研究で明らかになった役割モデル行動は，看護師自身の絶ゆまぬ成長，教育的立場にある者の感情コントロール，病棟全体への波及効果を促すことが期待出来る．学生の役割モデルとなる一般の看護師も多数存在はしているが，このような看護師との出会いは，たまたま受け持ち患者の担当看護師であったなど，偶然的な要素が大きい．教育的立場にある臨地実習指導者が，意図的に役割モデルをとることの意義は，学生の役割モデルとの出会いを，必然のものとすることである．学生は，臨地実習指導者の生き生きと看護する姿や，常に人間・看護師としての成長していく姿を目にすることで，看護の楽しさを感じ，看護への思いを深めると考える．このような体験を提供することは，教育的立場にあり，実習を授業の一環と認識する臨地実習指導者でなければ出来ない，意図的な関わりである．以上，臨地実習指導者は，本研究結果を自らの行動指針として，学生の成長・発達に貢献する役割モデルとしての機能を発揮することが期待される．

おわりに

太田ら[5]は，誰が役割モデルとなりえるかは，役割モデル行動をとる者が決めることではなく，役割モデル行動を必要とする人に依存すると言う．学びの主体は学生であり，臨地実習指導者がすべきことは，粛々と５つの役割モデル行動を実践し，呈示し続けることである．指導者の看護する姿から，学生が看護の醍醐味，おもしろさを感じてもらえることを期待したい．

本研究は，研究者と研究対象者が同一であることから，対象者の選定に偏りがある．今後は対象者数を増やし，抽出された概念の説明力を高めたいと考えている．

謝　辞

本研究は，平成 21 年度香川県保健師助産師看護師実習指導者講習会における研究に加筆修正を加えたものです．講習会を主催し学びの場を与えてくださった香川県看護協会，参加の機会を与えてくださった各所属施設の看護部長に感謝いたします．

文　献

1）宮地緑，星和美．第 1 章 臨地実習の基本的な考え方，“看護学臨地実習ハンドブック (松木光子監修)”，改訂 4 版，金芳堂，1-27, 2010.
2）厚生労働省．看護基礎教育の充実に関する検討会報告書，“ 看護教員必携資料集（田村やよひ編集）”，メジカルフレンド社，195-216, 2009.
3）中山洋子．看護学基礎教育のこれからの方向性．日本看護学教育学会誌，20(2): 47-54, 2010.
4）文部科学省．臨地実習指導体制と新卒者の支援－看護教育の在り方に関する検討会報告－ , http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/018/gaiyou/020401c.htm（2010,9,27 閲覧）
5）太田美緒，前田樹海．文献に見るわが国の看護教育における役割モデル行動の概念．長野県立看護大学紀要　11: 51-61, 2009.
6）舟島なをみ，松田安弘，山下暢子，吉富美佐江．看護師が知覚する看護師のロールモデル行動．日本看護学会誌　14(2): 40-50, 2005.
7）中谷啓子，本郷久美子，松田安弘，舟島なをみ．学生が知覚する看護師のロールモデル行動に関する研究．東海大学短期大学紀要　40: 13-21, 2006.
8）村上みち子，舟島なをみ．看護学教員のロールモデル行動に関する研究－ファカルティ・ディベロップメントの指標の探究－．看護研究　35(6): 35-46, 2002.
9）Bandura A. ”Psychological Modeling: Conflicting Theories”, Aldine De Gruyter, USA. [原野広太郎，福島脩美共訳 “ モデリングの心理学－観察学習の理論と方法－ ”，金子書房，東京，8-9, 1975.]
10）板野雄二．人間行動の心理学，“ 臨床心理学大系第 1 巻臨床心理学の科学的基礎 ”（河合隼雄，福島章，村瀬孝雄編），初版，金子書房，東京，112-117, 1991.
11）Burns N, Grove S. K. “The Practice of Nursing Research-Conduct,Critique,AndUtilization”,5th ed., Saunders,USA. [黒田裕子，中木高夫，他，監訳 “ 看護研究入門－実施･評価･活用－ ”，エルゼビア･ジャパン，東京，586-589, 2007.]
12）Benner P, Hooper-Kyriakidis P. L, Stannard D. “Clinical Wisdom and Ientervention in Critical Care：A　Thinking-In-Action Approach“, 1st ed., Saunders, USA. [阿部恭子, 北村直子, 佐々木吉子, 齋藤やよい，田口智恵美，寺島久美他 “ ベナー看護ケアの臨床知－行動しつつ考えること ”（井上智子），医学書院，東京，614, 2005.]
13）堰合裕子，高橋方子，竹本由香里，看護学生の看護イメージの変化と影響を及ぼした体験の検討．看護教育，第 35 回日本看護学会論文集（看護教育），154-156, 2004.

Abstract

Purpose: This study aims at understanding the role-model behaviors expected of nurses by instructors of practical nursing training, toward helping to improve education for nursing students.

Method: The focus group method was used in interviewing six instructors, and the results of the interview were analyzed qualitatively and inductively.

Results: Instructors of practical nursing training believe that, as nurses, they are supposed to demonstrate the following behaviors as role models: 1) Developing themselves as nurses and helping patients and their family members to grow by mutually sharing joys and sorrows, 2) making full use of the skills and intuition that nurses acquire through various experiences for the benefit of nursing care, 3) deepening understanding of our humanity, 4) pursuing ideal nursing care without being afraid of making mistakes, and 5) being able to control private feelings and to collaborate with other staff with mutual respect.

Conclusion: Instructors of practical nursing training demonstrate the behaviors of role models because they believe it is important for nursing students to see that the instructors are taking real pleasure in working energetically at providing care. This study suggests that the five role-model behaviors make up the instructor's guidelines of practical nursing training.

受付日　2010 年 10 月 15 日
受理日　2011 年　1 月　4 日